

2020年（令和二年）

1月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

1/16~1/22のNYMEX・WTIは、56.74~58.54ドルの範囲で推移した。

1月23日は、中国での新型肺炎の拡大への警戒感が高まる中、3日続落した。1日遅れで発表された米エネルギー情報局の米国在庫週報は、原油が前週比40万バレル減と市場予想より小幅な取り崩し、ガソリン在庫は同170万バレル増、中間留分在庫は120万バレル減と、強弱まちまちの結果となった。3月限終値は前日比1.15ドル安の55.59ドル。

週末24日は、引き続き、新型肺炎の影響で石油需要が落ち込むとの懸念から、4日続落した。米国株価も投資家のリスク回避姿勢を反映して値下がりした。ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は676基と前週比3基増と2週連続の増加となった。3月限終値は前日比1.40ドル安の54.19ドル。

27日は、サウジのアブドルアジズ・エネルギー相の「新型肺炎の原油需要への影響は極めて限定的だ」との発言にもかかわらず、5営業日続落し、約3か月半ぶりの安値を付けた。3月限終値は、前日比1.05ドル安の53.14ドル。

週明け28日は、前日、サウジのアブドルアジズ・エネルギー相とUAEのマズルーイ石油相は、新型肺炎や需要減速への警戒感を背景に、OPECプラスは市場の均衡に向けあらゆる選択肢を検討していると発言、協調減産の延長・拡大を示唆したことから、6営業日ぶりに反発した。安値拾いの買いも見られた。3月限終値は前日比0.34ドル高の53.48ドル。

29日は、OPECプラスが次期会合で、協調減産の3か月間延長を検討中であるとの報道を好感して、買い優勢が始まったが、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表で、原

油在庫が前週比360万バレルの増と市場予想を上回る積み増しだったことから、供給過剰感が広がり、結局、小幅に反落した。3月限の終値は前日比0.15ドル安の53.33ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(3月渡し)は1月16日~22日の間64.40~65.80ドルの範囲で推移した。1月23日62.30ドル、24日62.10ドル、27日59.20ドル、28日59.00ドル、29日59.70ドルで推移した。

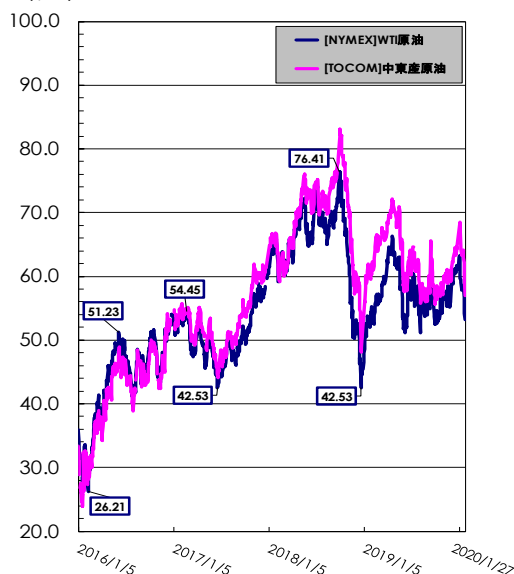
為替は1月16~22日の間109.91~110.33円の範囲で推移した。1月23日109.72円、24日109.59円、27日109.06円、28日108.87円、29日109.08円で推移した。

財務省が1月30日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格は、47,598円/klで、前旬比1,279円高、ドル建て69.13ドルで前旬比1.58ドル高。為替レートは1ドル/109.46円だった。

そのような中で、1月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同横ばい、灯油は同2円の値上がり(18㍻ベース)だった。ガソリンは12週ぶりの値下がり、軽油は12週ぶりに値上がりが止まり、灯油は7週連続の値上がりだった。この週(1月第4週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに1.0~1.5円の値下げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/19 ~ 1/25	3,417 ▼ -80	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.3 ▼ -2.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/25	11,401 ▲ 550	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/27	57.01 ▼ -7.10	▼ -3.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/27	53.14 ▼ -5.20	▲ 1.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月上旬	69.13 ▲ 1.58	▲ 6.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	47,598 ▲ 1,279	▲ 4,488
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.46 ▼ -0.45	▼ -0.11
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/27	110.06 ▲ 1.13	▲ 0.29

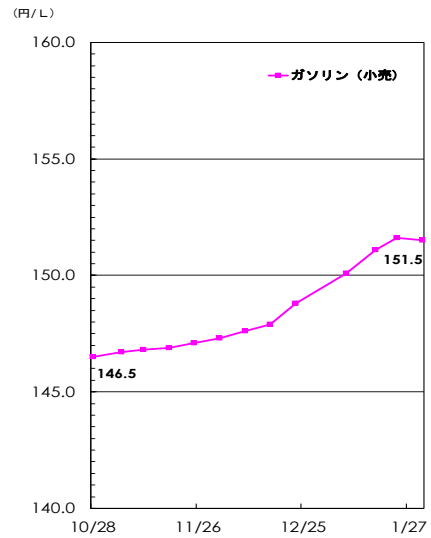
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/19 ~ 1/25	871 ▼ -139	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	813 ▼ -16	▲ -
	輸出	"	14 ▼ -113	▼ -
	在庫	1/25	1,795 ▲ 43	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/21 ~ 1/27	61.8 ▼ -1.7	▲ 6.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/21 ~ 1/27	56.2 ▼ -2.1	▲ 3.8
	(TOCOM/中部)	1/27	57.5 ▼ -3.5	▲ 3.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/27	151.5 ▼ -0.1	▲ 8.6

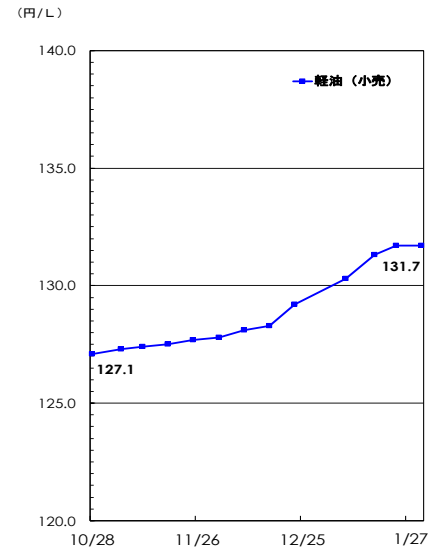
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

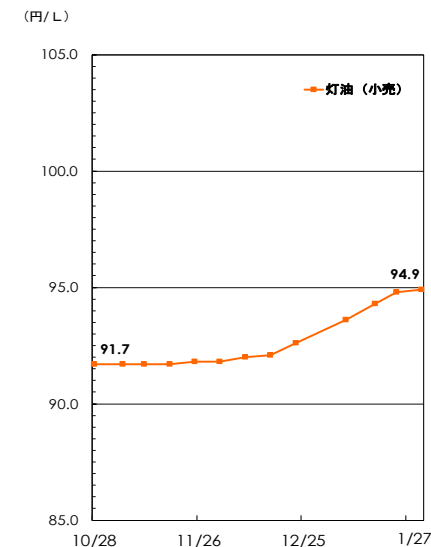
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/19 ~ 1/25	779 ▲ 100	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	695 ▲ 143	▲ -
	輸出	"	143 ▼ -71	▼ -
	在庫	1/25	1,572 ▼ -59	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/21 ~ 1/27	65.4 ▼ -1.1	▲ 5.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/21 ~ 1/27	66.1 ▼ -1.5	▲ 4.8
	(TOCOM/中部)	1/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/27	131.7 ➡ 0.0	▲ 7.7

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/19 ~ 1/25	444 ▲ 35	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	391 ▼ -100	▼ -
	輸出	"	67 ▲ 25	▲ -
	在庫	1/25	2,090 ▼ -15	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/21 ~ 1/27	64.7 ▼ -1.2	▲ 5.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/21 ~ 1/27	60.1 ▼ -2.3	▲ 1.0
	(TOCOM/中部)	1/27	61.0 ▼ -3.1	▲ 0.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/27	94.9 ▲ 0.1	▲ 6.2



■ 関連情報

1 海外/原油

1月29日のNYMEX市場WTI原油は、OPECプラスが次期会合で、協調減産の3か月間延長を検討中であるとの報道を好感して、買い優勢で始まったが、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報の発表で、原油在庫が前週比360万バレルの増と市場予想(50万バレル増)を上回る積み増しだったことから、供給過剰感が広がり、結局、小幅に反落した。新型肺炎で拡大で、アメリカン航空が中国便の全面欠航を発表するなど、経済活動への影響の懸念も広がっている。3月限の終値は前日比0.15ドル安の53.33ドル、4月限の終値は同0.11ドル安の53.41ドル。

EIAによると、1月27日時点のガソリンの小売価格は、前

週比3.1セント値下がりの1ガロン2.506ドル(72.8円/ℓ)、ディーゼルは同2.7セント値下がりの3.010ドル(87.4円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年1月19日～1月25日に休止したトッパー能力は17.3万バレル/日で、前週に対して10.3万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は341.7万klと、前週に比べ8.0万kl減少。前年に対しては20.3万klの減少。トッパー稼働率は87.3%と前週に対して2.0ポイントの減少、前年に対しては5.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加となった。ガソリン/13.8%減、ジェット/50.5%減、灯油/8.5%増、軽油/14.7%増、A重油/23.6%増、C重油/1.1%減。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比0.6万kl増)。軽油の輸出は14.3万kl(前週比7.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比で軽油、A重油で増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油、C重油で減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は81.3万kl(対前週2.0%減)と2週連続で減少となり、23週連続で100万klを下回った。ジェット5.6万kl(対前週28.0%減)、灯油39.1万kl(対前週20.3%減)、軽油69.5万kl

(対前週25.9%増)、A重油25.9万kl(対前週20.3%増)、C重油13.6万kl(対前週23.0%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (1/19 ~ 1/25)	前週 (1/12 ~ 1/18)	前週比
ガソリン	813	829	▼ -16 (-2%)
ジェット燃料	56	77	▼ -21 (-27%)
灯油	391	491	▼ -100 (-20%)
軽油	695	552	▲ 143 (26%)
A重油	259	215	▲ 44 (20%)
C重油	136	177	▼ -41 (-23%)
合 計	2,350	2,341	▲ 9 (0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月25日時点の在庫は、ガソリン、A重油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油で増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンは179.5万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては2.9万kl少ない。

灯油は209.0万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては7.7万kl多い。

軽油は157.2万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては9.2万kl少ない。

A重油は75.3万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては7.5万kl少ない。

C重油は191.2万kl、前週差4.3万kl増。前年に対しては17.5万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (1/25)	前週 (1/18)	前週比
ガソリン	1,795	1,752	▲ 43 (2%)
ジェット燃料	775	863	▼ -88 (-10%)
灯油	2,090	2,105	▼ -15 (-1%)
軽油	1,572	1,631	▼ -59 (-4%)
A重油	753	742	▲ 11 (1%)
C重油	1,912	1,869	▲ 43 (2%)
合 計	8,897	8,962	▼ -65 (-0.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月21日～27日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替も円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、1月21日～27日の間、ガソリン114～116円台で大きく値下がり、軽油64～66円台で大きく値下がり、灯油64～65円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン117～119円台で大きく値下がり、軽油67～68円台で値下がり、灯油59～64円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～111円台で大きく

値下がり、軽油63～67円台で大きく値下がり、灯油57～62円台で大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.0～1.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月21日～27日の製品スポット市況は、1月14日～20日平均と比べ、全油種・全取引で値下がりした。

直近の陸上スポット価格(1/21～1/27、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.7円の値下がり、灯油は1.2円の値下がり、軽油は1.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが2.1円の値下がり、灯油は2.3円の値下がり、軽油は1.5円の値下がりだった。

2月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下がりに分かれた。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/21～1/27)	前週 (1/14～1/20)	前週比
	レギュラー	61.8	63.5	▼ -1.7
	灯油	64.7	65.9	▼ -1.2
	軽油	65.4	66.5	▼ -1.1

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] 〔平均〕	今週 (1/21～1/27)	前週 (1/14～1/20)	前週比
	レギュラー	56.2	58.3	▼ -2.1
	灯油	60.1	62.4	▼ -2.3
	軽油	66.1	67.6	▼ -1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/21～1/27実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -1.7	▼ -2.1	▼ -1.9	
灯油	▼ -1.2	▼ -2.3	▼ -1.8	
軽油	▼ -1.1	▼ -1.5	▼ -1.3	
A重油	▼ -1.0			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前回比0.1円安の151.5円、軽油は同横ばいの131.7円、灯油は18ℓベースで同2円高の1,708円(1ℓベースでは同0.1円高の94.9円)。ガソリンは12週ぶりの値下がり、軽油は12週ぶりに値上がり止まり、灯油は7週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが15都府県、横ばいが15道県、値下がりが17府県となった。全国最安値は岡山県の146.9円(同0.3円高)、その次に安いのは宮城県の147.4円(同0.2円安)、最高値は長崎県の163.0円(同横ばい)。最も値上がりしたのは同0.8円高の兵庫県(150.0

円)、横ばいは長崎県等15道県、最も値下がりしたのは同1.9円安の福井県(151.5円)だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下げとなった。今週は、原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0～1.5円の値下げとなった。次回調査時(2月3日)のガソリン・灯油の小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格	[週動向]	今週 (1/27)	前週 (1/20)	前週比	直近高値	
	レギュラー	151.5	151.6	▼ -0.1	08/8/4	185.1
	灯油	94.9	94.8	▲ 0.1	08/8/11	132.1
	軽油	131.7	131.7	➡ 0.0	08/8/4	167.4

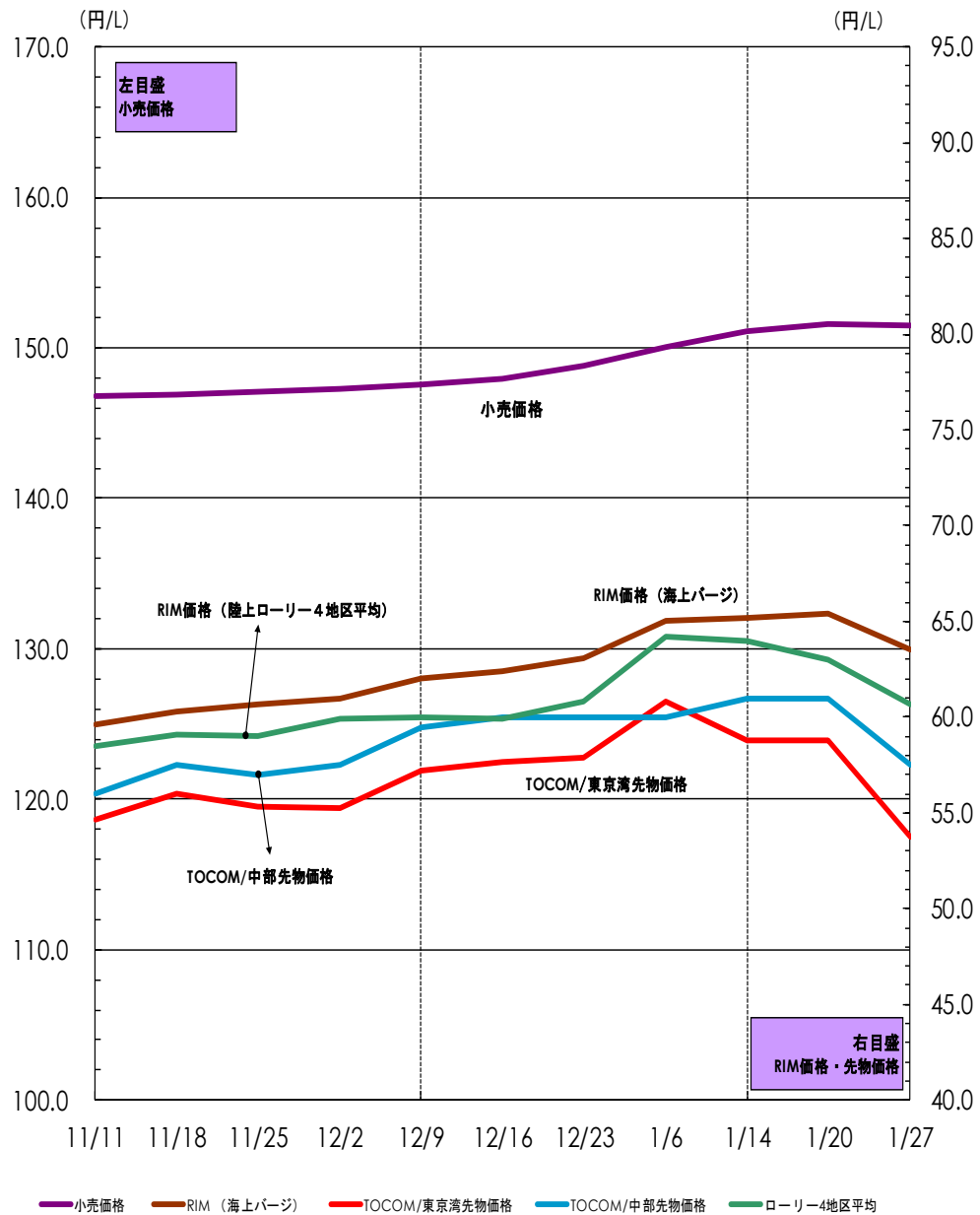
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/11/11 ~ 2020/1/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第42号)の公表は、2/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和元年9月末現在)は、12月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。